

映画『ヨコハマメリー』から11年。渾身の長編ドキュメンタリー映画『禅と骨』を引っ提げて中村監督がスクリーンに帰ってきた。横浜生まれ横浜育ちの日系人ヘンリ・ミトワを追いつけ、再び「横浜」とは何ぞや?と問いかける。監督の映画は、究極の「横浜愛」だ!

## 京急線と根岸線エリアに住まう

幼少期は金沢文庫に住んでいました。それから弘明寺、港南台、根岸森林公園、日ノ出町、阪東橋、と横浜市内のいろいろな所に移り住んできました。

長かったのは金沢文庫、朝比奈の方です。そこから遊びに行くのですが、おしゃれに決めるなら横浜五番街のエリア、ビブレやムービルへ。一人で映画を観に行くなら黄金町で降りて、伊勢佐木町界隈、ピカデリーから松竹、東映、橋を渡って東宝会館、ちょっとマニアックに日劇とか。その2つのエリアが僕の「横浜」という感じでした。

## レンタルビデオじゃ物足りない

小学生の時は『バック・トゥ・ザ・フューチャー』とか、スピルバーグの映画を観に行く程度でした。中学1年くらいの時にレンタルビデオが普及し始めて、ビデオを観るようになり、映画にのめり込みました。ビデオでは物足りなくなって、休みには必ず映画館に行く、というのが習慣になりました。

映画監督になるなんて思ってもみませんでした。松竹大船撮影所で働き始めた時も、映画に携われる仕事ができたらいいな、というくらいで。当時、大船撮影所では1年に2~3本の映画とドラマの撮影をしていて、僕はVシネマや2時間ドラマを撮る部門で、助監督をしていました。

2年くらい経ったころ、「自分の価値観を揺さぶられたい」と中国・北京に留学。中国の近現代史に興味があったのと、第5世代(チャン・イーモウ、チェン・カイコーなど)の監督が撮る映画に感銘し、あの人がいるところで一度勉強してみたい、と思ったからです。ある時教授が「今日は日本のドキュメンタリーを観よう」と日本のTV番組『はじめてのおつかい』について講義し

ました。「この作り手は子どもたちの喜怒哀楽をどう写し撮るか、ということだけに集中している。一番大事なのは一つの導線があること。お母さんからお金を渡されて帰ってくるまで、という非常にシンプルな構造の中で、対象者の表情だけを見つめようとしている」。方法論ではなく「何を撮る」という思想から始めないと、本当の表現は始まらないんだ、と教わりました。

## ドキュメンタリーを「撮る」

魅力的な人はたくさんいますが、それだけで作品はできません。対象者がいて、作り手がいるという「共犯関係」にならないと映画は撮れない。一緒に作っていかないと無理なのです。

『禅と骨』が完成するまでに8年を要しました。横浜生まれ横浜育ち、面白い日系人のお坊さんがいるので会ってみたい?と紹介され、京都の禅僧ヘンリ・ミトワさんと会いました。最初は撮ろうと思いませんでしたが、徐々にこの人が抱えているいろんな荷物を「一緒に持とうか?」と思うように。撮り始めるまでに3年かかりました。カメラを回し始めて1年後、ミトワさんが亡くなりました。そのあともずっと、家族との関係は続いています。そこまで背負う覚悟、関係性を続ける覚悟はあるか。カメラが回っていないところで、関係を構築する時間をものすごくかけて、やっと心を開いてくれる。その時に、どんな表情をするのだろうか?そこが撮れないと本当の意味でその人間を撮ったとは言えない。事前のリサーチをして、関係を築いてから撮る、僕はそういう撮り方しかできません。

ミトワさんの夢をかなえてあげたい、というのがこの映画の表のテーマでした。もともとはミトワさんが赤い靴の劇映画を撮りたい、というところから始まったのです。



映画監督  
中村 高寛氏  
Takayuki Nakamura

1975年生まれ、横浜市在住。1997年、松竹大船撮影所よりキャリアをスタート、助監督として数々のドラマ作品に携わる。99年、北京電影学院に留学し、映画演出、ドキュメンタリー理論などを学ぶ。06年に映画『ヨコハマメリー』で監督デビュー。横浜文化賞芸術奨励賞、文化庁記録映画部門優秀賞、ヨコハマ映画祭新人監督賞・審査員特別賞、藤本賞新人賞など11個の賞を受賞。テレビドキュメンタリーも多数手がけている。

この映画を撮ることでミトワさんの夢は全て叶えたいつもりです。

## 行きつく先は「横浜」

前作の『ヨコハマメリー』はハマのメリーさんを通して日本・横浜の戦後史を描く、という映画でした。あれを撮った時に「次はアメリカだ」って思っていたんです。日本の近現代史において、アメリカとは何だったのか、どう考えなければいけないのか。ミトワさんと出会い、ミトワさんという一人の人間を通して、日本の近現代史が描けるんじゃないか、と思いました。横浜って日本の近現代史を象徴している街だと思うんです。ミトワさんがこの街で生まれ育ったのは、その象徴だと感じました。映っているのは京都でありアメリカなのですが、その先

にあるのは横浜です。横浜とは何ぞや?日本の近現代史とは何ぞや?と反芻しながら撮りました。これが裏のテーマです(笑)。

僕の映画は、その先に横浜があればいい。だからこそ横浜の人に観てもらって、自分たちの街をじっくり考えてもらいたい。きちんと横浜の歴史を残さなければいけないと思うんです。この映画を観ることで、自分たちの中の「横浜」って何なんだろう?って。誇りみたいなものが感じられるようになったら、正真正銘の「ハマッ子」みたいな(笑)。何度観ても面白い、何度観ても新たな発見があります。ぜひ観てください!

『禅と骨』  
配給:トランスフォーマー ©大丈夫・人人FILMS  
横浜ニューアトル ☎045(261)2995で公開中

レコードプレーヤー スピーカー アンプ など

## 使わないオーディオをお持ちの方へ

顧客満足を目指すプロのスタッフが、無料で出張査定&買取いたします。査定額にご納得いただけましたら、その場で現金にてお支払いいたします。

**感謝の買取金額をご提示します!**

選べる3つの買取方法 **無料出張** **店舗** **宅配**

# 高価買取

この機会に  
使わないオーディオをプロに任せて  
整理してみませんか?

**出張&査定 無料!!** — 完全予約制 —  
出張買取等で店舗にスタッフが不在の場合があります。事前にお問合せください。

品川店オープン  
キャンペーン!

お電話で「ヨコハマよみうりを見た」とお伝えください。※2017年9月30日まで

通常買取価格より  
**13%アップ!!**

**0120(905)471**  
受付時間/9時~20時30分

**オーディオ買取専門店  
オーディオサウンド**

■横浜店: 神奈川県横浜市西区境之谷3-1  
■川崎店: 神奈川県川崎市幸区南加瀬1-17-45  
■横須賀店: 神奈川県横須賀市上町3-10  
■品川店: 東京都品川区南大井4-19-15  
※一部出張できないエリアもあります

運営協力/サイクルマイスター  
(古物商許可番号)  
神奈川県公安委員会  
第451350005747号  
東京都公安委員会  
第305590806398号

問合せ番号  
**お1744**